

第1学年	教科名	使用教科書	光村図書 国語 I	担当教員	玉田 昇吾	
付けたい 資質・能力		語彙力 & 漢字力		評価	評価の観点	評価の方法
【身につく力】 豊かな「自己表現力」の基になる基礎・基本の知識や技能				知識・技能	言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化に関する知識及び技能を身につけ、様々な場面で活用する力を習得しているかを評価する。	・定期テスト ・小テスト [新出漢字、文法、語句 等]
【学習目標】 (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。 (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力・創造力を養う。 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。				思考・判断・表現	言語を通して正確に理解したり、適切に表現したりする力や、言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像・創造する力がついているかを評価する。	・定期テスト ・単元末などに実施する「学習した事項を活用して取り組む」課題
				主体的に学習に取り組む態度	課題[漢字の知識の定着を図るための家庭学習課題]に取り組んだり、目標を達成したりするために、粘り強く取り組んでいるか、また、その経過のなかでの自身の変容について評価する。	・振り返りシート ・課題への主体的な取り組み方 [粘り強さ & 自己調整]

【授業の進め方（授業のポイント）】 ○ 物語文や論説文、古文などの読解を通して様々な人々の経験や考え方に触れ、時に寄り添い、時に批判をしながらも、自身の「考え方」を形にしていきます。 ○ 授業の中で触れる漢字や文法、ことわざなどを身につけることは、自身の「考え方」をより豊かに、正確に表現するのに役立ちます。「ただ暗記して終わる」のではなく、「日常生活の中で使いこなす」ことで身につけていきましょう。 ○ まずは、「豊かな表現力」の基になる基礎・基本の知識や技能をしっかりと身につけていきましょう。	【家庭学習について】 ○ 基礎・基本の知識や技能を定着させるために、粘り強く課題に取り組みましょう。 <i>* 定期的に課す「新出漢字の練習シート」を用いて練習したり、分からない項目などを調べたりして漢字力を高めましょう。</i> ○ 教わって身につけるだけではなく、自分自身でも調べる癖をつけてください。 <i>* 課された課題に取り組むだけではなく、辞書を活用して関連する漢字や語句などを調べ、語彙力を増やしましょう。</i>
---	--

1 学期		2 学期		3 学期	
1 言葉に出会うために	野原はうたう	5 心の動き	大人になれなかった弟たちに…… 星の花が降るころに 項目を立てて書こう	9 自分を見つめる	少年の日の思い出 単語の性質を見つけよう さまざまな表現技法 漢字の成り立ち
2 学びをひらく	シンシュン 情報を的確に聞き取る 情報を整理して書こう 漢字の組み立てと部首	6 筋道を立てて	「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 根拠を示して説明しよう 話題や展開を捉えて話し合おう 文の組み立て	書写	硬筆書写・毛筆書写
3 新しい視点で	ダイコンは大きな根？ ちょっと立ち止まって 意見と根拠 言葉のまとまりを考えよう	7 いにしえの心に ふれる	いろは歌 古典の世界 蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から 今に生きる言葉		
4 言葉に立ち止まる	詩の世界 比喻で広がる言葉の世界 指示する語句と接続する語句	8 価値を見いだす	「不便」の価値を見つめ直す		

第1学年	教科名	使用教科書	「中学生の歴史」「中学生の歴史」(ともに帝国書院)	担当教員	佐飛 紀子・大内 仁之輔
------	-----	-------	---------------------------	------	--------------

付けたい 資質・能力	社会参画力	評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】 ・他者との対話、諸資料と向き合うことで、当たり前と思っていることを問い直したり、捉え直す。 ・社会的事象に対して抱いた課題を、自分の力で批判的に解釈・評価する。 ・時間をかけて深く考える中で、自分の考えを深めて、自分の将来を見据えて考え続けていく。		知識・技能	○社会的事象について(～は～である)理解し、その知識を身につけている。 ・用語・語句や特色・意味など概念に関わる知識 ○社会的事象などについて調べ、まとめる技能をつけている。 ・課題の解決に必要な情報を集める。【収集する】 ・収集した情報を見方・考え方を働かせて読み取る【読み取る】 ・読み取った情報を課題解決に向けてまとめる【まとめる】	・定期テストの点数 ・ワーク ・パフォーマンス課題
		思考・判断 ・表現	○【思考力・判断力】に関わって ・社会的事象をとらえ、社会的事象の意味や意義、それぞれの関連について、考察する。 ・社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想(複数の立場や意見を踏まえて選択・判断)している。 ○【表現力】に関わって ・適切な資料・内容や表現方法を選び、根拠や理由を明確にして、論理的に説明する。 ・仲間との話し合いで、仲間の主張を踏まえたり、取り入れたりして、立場や根拠を明確にして主張・議論している。→社会参画の視点	・定期テストの点数 ・パフォーマンス課題
【学習目標】 ・社会参画するための力の基礎を身に付ける。 →これからの社会の創り手として、社会の中で活躍・貢献する。 ・よりよい社会を作るために主体的に社会と関わること。 →社会のことがらを自分事として捉える。		主体的に学習に取り組む態度	○学習単元・課題について主体的に調べ分かうとして課題を意欲的に追究している。 ・単元の「見通し」をもつ ・他者と協働しながら粘り強く考える(試行錯誤しながらでも考えを持つ) ・振り返りで学んだことの意味について考える。 ○よりよい社会を考え、学んだことを生かそうとする。 ・学んだことを、社会生活にどう生かそうとするか。 ・よりよい社会を創るために、自分で「新たな問い」を作る	・振り返り ・パフォーマンス課題

【授業の進め方(授業のポイント)】 *基本的には、教科書に沿って教科書のページ順に学習する。 *進度の目安は1時間で見開き2ページ進めることを原則とする。 *ノートを書く際に、「疑問に思ったこと」、「学んだこと」など、個人で考えることを積極的にメモを取って大切にすること。 →自分で考える習慣が自分を「深化」させ、振り返りを書くための手立てとなる。	【家庭学習について】 *自主学習ワークと3年間の総復習は、1つずつ○つけまですること。 ・まずは自分の力で取り組むこと。漢字で分からないものは、かな交じりで書く。 ・その後、教科書を見て分からなかったところを解く。→正しい漢字に訂正する。 ・最後に答え合わせをして、教科書を見ても分からなかった部分はチェックしておく。 *学習したことを多面的につなげるため社会的事象について、常に「アンテナ」を高く持つこと。
--	---

1学期		2学期		3学期	
地理的分野 ・世界の姿 ・人々の生活と環境	・世界にはどのような国があり、その位置を表す方法が分かる。 ・世界各地の人々の生活が、自然環境(気候や地形)とどのような関わりがあるのかを資料から読み取る。	地理的分野 ・世界の諸地域 アフリカ州 アジア州 パフォーマンス課題 アジア州に工場を作ろう	・アフリカ州の国々では、特定の産物に頼る経済が、地域にどのような影響を与えているのかを考える。 ・アジア州における急速な経済成長は、地域にどのような影響を与えているのかを考える。	地理的分野 ・世界の諸地域 ヨーロッパ州 北アメリカ州 南アメリカ州 パフォーマンス課題 経済成長or環境保全 オセアニア州 ・日本の姿	・ヨーロッパ州では、国どうしの結びつきが強まることによって、地域にどのような影響が生じているのかを考える。 ・北アメリカ州では、アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発展した結果、地域にどのような影響が生じているのかを考える。 ・南アメリカ州では、農地や鉱山の開発が進むことによって、地域にどのような影響が生じているのかを考える。 ・オセアニア州では、他地域との関係が変化してきたことによって、地域にどのような影響が生じているのかを考える。 ・日本の位置や広がりには、どのような特色があるのかを読み取る。
歴史的分野 ・歴史の流れと時代区分 ・古代国家の成立と東アジア 人類の登場から文明の発生へ 東アジアの中の倭 中国にならった国家作り	・年代の表し方や時代区分にはどんな種類があるのかを理解する。 ・世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのかを比較し考える。 ・日本列島には、どのようなクニができて、勢力を広げたのかを説明する。 ・日本の古代国家は、どのような国づくりを行ったのかを説明する。	歴史的分野 ・展開する天皇・貴族の政治 パフォーマンス課題 古代の有名な人は? ・武家政権の成長と東アジア パフォーマンス課題 武士と庶民はどんな結びつけを強めたのだろうか?	・中国から取り入れた制度や文化は、どのように展開したのか考える。 ・ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのか説明する。 ・武士や民衆はどのような結びつきの社会を作っていたのかを考える。	歴史的分野 ・大航海によって結びつく世界 ・戦乱から全国統一へ	・全国を統一する安定した政権を成立させたものは何かを明らかにする。

第1学年	教科名	使用教科書	啓林館	担当教員	久次米 秀振・川島 淳
------	-----	-------	-----	------	-------------

付けたい 資質・能力	抽象的論理力	評価	評価の観点	評価の方法
【身につく力】 数学を学ぶと・・・ (1) ものごとに筋道を立てて考える力（論理的にものごとを考える力） (2) ものごとを深く考える力（ものごとの本質を見つける力） (3) ものごとを分かりやすく説明し、人に伝える力（説得力） (4) 一つ一つのことがらを結び付けて、新しい考え方を見つける力（クリエイティブな思考力） (5) 日常生活の中で生かされている様々な数学のよさが分かる。	知識・技能	学習の過程を通した知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。	定期テスト 小テスト 自己評価（内容） レポート（内容）	
		思考・判断 ・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているかを評価する。	定期テスト 小テスト 自己評価（内容） レポート（内容）
		主体的に学習に 取り組む態度	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。	ノートの記述 自己評価（内容） レポート（内容）
【学習の目標】 (1) 正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図形と空間図形、比例と反比例、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力、数量の変化や対応に着目して関数関係を見いだし、その特徴を表、式、グラフなどで考察する力、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。 (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそとする態度、問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度、多面的に捉え考えようとする態度を養う。				

【授業の進め方（授業のポイント）】 ・ノートの取り方を工夫する。 ➡ 黒板に書かれたことだけでなく、自分が大切だと思ったことや気づいたことも記述する。 ・分からないことを質問する。 ➡ 授業で分からなかったことは、そのままにせず必ず質問をして理解する。 ・毎時間の授業の振り返りをする。 ➡ 授業の振り返りをすることで、授業のポイントだけでなく、今の自分の学習状況やこれからの学習の進め方についても振り返りをする。	【家庭学習について】 ・家庭学習を習慣化する。（特に、復習を大切にする。） ・基本的な問題は、繰り返し練習をする。 ・課題は必ず期限を守り、やり切ること。
---	---

1学期		2学期		3学期	
1章 正の数・負の数	1節 正の数・負の数 2節 正の数・負の数の計算 3節 正の数・負の数の利用	3章 方程式	1節 方程式 2節 方程式の利用	5章 平面図形	2節 移動と作図 3節 円とおうぎ形
2章 文字の式	1節 文字を使った式 2節 文字式の計算	4章 変化と対応	1節 関数 2節 比例 3節 反比例 4節 比例、反比例の利用	6章 空間図形	1節 立体と空間図形 2節 立体の体積と表面積
		5章 平面図形	1節 直線と図形	7章 データの活用	1節 ヒストグラムと相対度数 2節 データにもとづく確率

第 学年	教科名	使用教科書	未来へひろがるサイエンスI（啓林館）	担当教員	青木 寛也・川崎 楽
------	-----	-------	--------------------	------	------------

付けたい 資質・能力	科学的に探求しようとする力	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	見通しをもって観察、実験などを行い、自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解するとともに、探究の過程を通して科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	・定期テスト ・小テスト ・実験レポート ・パフォーマンス課題 ・評価表
		思考・判断 ・表現	問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、規則性、関係性、共通点や相違点、分類するための観点や基準を見だして表現している。	・定期テスト ・小テスト ・実験レポート ・パフォーマンス課題 ・評価表
		主体的に学習に 取り組む態度	物質やエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしている。生命や地球に関する事物・現象に進んでかかわり科学的に探究しようとしている。生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。	・振り返りシート（学習前と学習後の比較） ・授業ノート ・パフォーマンス課題 ・課題への取り組み ・評価表

【授業の進め方（授業のポイント）】 ・ノートの取り方を工夫する。 評価物に書かれているノートですが黒板に書かれたことだけでなく、自分が大切だと思ったことや気づいたことも 記述するように意識してください。家庭での学習の際に、どこが重要かが自分で分かるようにマーカーを使用した強調、ポイントのまとめ欄を作成する等、自分だけのノートが作成できるといいでしょう。 ・観察・実験レポートや課題 観察・実験を行った際にレポート課題を出し、次回の授業で提出にします。その際、授業内でおこなったことを忘れないようにできる限り当日に仕上げることをおすすめします。また、考察は自らが考え察したことを記入するものであるため、他の人の記述をまねするのではなく、自ら考えたことを書くようにしてください。考察での自身の考えが正しいか、間違っているかは重要ではありません。観察・実験を通して考えたことを自らの言葉で表現する力を身につけて欲しいと考えています。 ・分からないことを質問する。 授業で分からなかったことはそのままにせず、友人や教員必ず質問をするようにしましょう。	【家庭学習について】 ・家庭では、復習に重点を置いて計画的に勉強をしてください。能率的に勉強するためには、1週間ごとの内容を見直し、大切な語句や公式を覚えておくのがよいでしょう。そのときには、「まとめノート」を作成する方法が効果的です。 また、定期テスト〈中間・期末〉については、少なくとも1週間前から取り組み、ノートと教科書で復習した後、副教材である「理科の学習」の問題や、教科書に載っている問題を解いて理解できているか確認するようにしましょう。 定期テスト後は間違えた箇所を見直し、解き直しをノートにまとめることで、3学年時に各学年の自分の苦手箇所が素早く分かるようになります。
---	---

1 学期		2 学期		3 学期	
自然の中にあふれる 生命	1 章 自然観察のポイント 2 章 身のまわりの生物の観察 3 章 生物のなかま分けのしかた	身のまわりの物質	1 章 いろいろな物質とその性質 2 章 いろいろな気体とその性質 3 章 水溶液の性質 4 章 物質のすがたとその変化	活きている地球	1 章 身近な大地 2 章 ゆれる大地 3 章 火をふく大地 4 章 語る大地
いろいろな生物とその 共通点	1 章 植物の特徴と分類 2 章 動物の特徴と分類	光・音・力による現象	1 章 光による現象 2 章 音による現象 3 章 力による現象		

第1学年	教科名	使用教科書	中学生の音楽Ⅰ・中学生の器楽	担当教員	平田 麻美
------	-----	-------	----------------	------	-------

付けたい 資質・能力	合唱表現力	評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】 ・しっかりとした発声で仲間とのびのび歌う力(歌唱・合唱) ・アルトリコーダーの運指を理解して演奏する力(器楽) ・音楽の良さを味わい、魅力を文章で表現する力(鑑賞) ・音符やリズムの組み合わせを工夫する力(創作)		知識・技能	歌唱や合唱、アルトリコーダー、創作などの表現活動では知識と技能を評価し、鑑賞活動では知識を評価します。	実技テスト (歌唱・合唱、アルトリコーダー) 定期テスト
		思考・判断 ・表現	表現活動では、表現を創意工夫しているかについて評価します。鑑賞活動では音楽を形づくっている要素をもとにしながら、音楽の良さや美しさを味わって聴き、曲の魅力などを文章にして評価します。	鑑賞曲の各ワークシート (春、魔王、六段の調など) 合唱表現シート(楽譜) (大切なものなど合唱曲)
【学習目標】 ・曲想と音楽の構造などとの関わりや音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱・器楽・創作の技能を身につける。 ・音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		主体的に学習に 取り組む態度	知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。	振り返りシート (歌唱・合唱、鑑賞、アルトリコーダー、創作)

【授業の進め方(授業のポイント)】 ①歌唱・合唱や器楽では、ある程度の練習を重ねると実技テストを実施します。練習の成果を発揮できるように、練習を大切にしましょう。また、お互いの表現を認め合い、実技テストでのびのびと発表できる雰囲気をつくりましょう。 ②鑑賞では、音楽の構造や雰囲気を感じ取りながらよさや美しさを味わい、曲の魅力を文章で表現しましょう。 ③創作では、四分音符や四分休符、八分休符をつかって簡単なリズム創作をします。テーマに沿って、自分なりの工夫をしましょう。	【家庭学習について】 授業で学んだことを復習して、理解を深めましょう。 様々な音楽に触れる機会を持ちましょう。
--	--

1学期		2学期		3学期	
【歌唱・合唱】	「校歌」 「主人は冷たい土の中に」	【歌唱・合唱】	「文化祭学年合唱曲 大切なもの」 「赤とんぼ」	【歌唱・合唱】	「合唱曲」※未定 「浜辺の歌」
【鑑賞】	「春」	【鑑賞】	「魔王」	【鑑賞】	「箏曲 六段の調」
【アルトリコーダー】	「アルトリコーダーについて」 ドレミファソの運指	【アルトリコーダー】	「よろこびのうた」 「聖者の行進」	【アルトリコーダー】	「聖者の行進」
【創作】	リズム創作	【創作】	リズム創作		

第1学年	教科名	使用教科書	美術I（光村図書）	担当教員	中村 優里
------	-----	-------	-----------	------	-------

付けたい 資質・能力	美の表現力	評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】 ・自分なりの「美しさ」を見つけて楽しく表現する力 ・作品を見る人（鑑賞者、他者）に作品がどんな影響を与えるのかを意識しながら制作する力	【学習目標】 ・自分とは何か、自分が表現したいものは何か、じっくり自分と向き合う。 ・画材や素材の基本的な使い方や、自分の表現に合う効果的な使い方を知り、制作に生かす。 ・受け継がれし日本の文化や芸術を知り、味わう。	知識・技能	・表現活動に必要な知識、理解があるか。 ・完成イメージを目指し、形や色、用具や材料を効果的に使っているか。	作品 ワークシート 定期テスト
		思考・判断 ・表現	・自ら作品のテーマやアイデアを発想し、それを深めて制作しているか。 ・作品を鑑賞したり他の人の意見を知るなどして、良さや新しい発見を感じ取れるか。	作品のデザインやアイデア 鑑賞ワークシート
		主体的に学習に取り組む態度	・楽しみながら真剣に取り組んでいるか。 ・丁寧に仕上げようと工夫し、資料の収集、制作活動の計画や作品の完成に向けて工程を振り返り、次時の制作でその振り返りを活かすことが出来ているか。	作品の完成度 学習計画ワークシート 振り返りワークシート

【授業の進め方（授業のポイント）】 ・見本や既存の芸術作品を鑑賞し、自身の制作のビジョンを立てやすくする。（こんな作品を作ってみたい、という意欲につなげる） ・友達の作品を鑑賞し、さまざまな感性や表現があることを知る機会を作る。 ・授業ごとに本時の学習の成果や次回制作の計画をワークシートに記入する。 ・マッピングワークシートやプランニングワークシートを活用し、スモールステップで制作を進める。	【家庭学習について】 ・作りたいもののイメージや発想はどこで思いつくかわからないので常にアンテナを張って過ごす。 ・作りたいものが決まったら、情報や資料を積極的に収集する。
--	---

1学期		2学期		3学期	
・自己紹介イラスト ・鑑賞「風神雷神」 ・鉛筆デッサン ・レタリング	・自分とは？自分を見つめて自分をデフォルメイラストで表現する。 ・日本の美術文化の造形的なよさや美しさ、特性などを感じ取り、日本美術についての見方や感じ方を広げる。 ・テーマに合わせてポーズングを工夫し、見たものを見たとおりに描写できるよう効果的に鉛筆を使う。 ・デザインされた文字の読みやすさや美しさを理解し、自分の名前を明朝体、もしくはゴシック体でレタリングする。	・絵文字 ・木彫	・漢字が持つ意味がわかりやすくなるよう絵を描き足したり変形させたりしてオリジナルの絵文字をデザインする。（ポスターカラー、ケント紙） ・木材の特徴を生かし、用と美を兼ね備えたなべ敷き（コースターやプレート皿としても使用できる）を制作する。（桂材、彫刻刀）持ち帰って実際に使用し、自身の作品に愛着が持てるようにする。	・木彫続き ・2年次制作予定の「人権ポスター」制作プランニング	・伝統工芸「木工」、木彫作品の鑑賞 ・学習したレタリング、ポスターカラー、色彩の学習を生かして、一目で瞬間的に情報が伝わり共用できる「ポスター」というツールを使って人権社会を考える。

第 学年	教科名	使用教科書	新しい保健体育（東京書籍）	担当教員	上村 詢也
------	-----	-------	---------------	------	-------

付けたい 資質・能力	協力する力	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	種目の基本用語や技術の名称、ルールを理解しているか、健康な生活を送るための知識を習得しているかを評価する。 基本的な技術を習得し、それを実践できるか、また、試合や記録会で身に付けた知識や技能を生かして表現できるかを評価する。	定期テスト 実技テスト 試合の中で技能を発揮できているかどうかを観察
		思考・判断 ・表現	知識や技能を活用し、自身の課題を発見し、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりすることができるかを評価する。	定期テスト 学習カード グループ、ペアでの話し合い活動で仲間の課題や出来映えを伝えているかを観察
		主体的に学習に 取り組む態度	各領域に積極的に取り組むことを通し、自身の課題の発見や克服、記録の向上に努めている姿や仲間と協力している姿勢を評価する。	授業の観察 学習カード 保健プリントの 記述内容

【授業の進め方（授業のポイント）】 ・準備運動や補強運動を通して、怪我の防止や基礎的な筋力や体力の向上に繋げる。 ・基礎的・基本的な技術を習得に向けて、自他の課題と向き合いながら取り組む。 ・ペアやグループの取り組みを積極的にこなう。 ・話し合い活動や振り返りを通して、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりする。	【家庭学習について】 保健分野で学ぶ知識をもとにして、基本的な生活習慣の確立や健康な生活を送ること。
--	--

1 学期		2 学期		3 学期	
【体育】 体づくり運動	新体力テスト 集団行動	【体育】 陸上競技	ハードル走	【体育】 陸上競技	長距離走
器械運動	マット運動	球技	バレーボール	球技	サッカー
球技	ソフトボール	ダンス	創作ダンス・現代的なリズムのダンス	【保健】 2章 心身の機能の発達と心の健康	体の発育・発達、呼吸器・循環器の発育・発達、生殖機能の成熟、異性の尊重と性情への対処、心の発達、自己形成と心の健康、心と体の関わり、欲求と心の健康、ストレスによる健康への影響、ストレスへの対処の方法
		武道	柔道	【体育理論】 1章 運動やスポーツの多様性	運動やスポーツの必要性和楽しさ、運動やスポーツへの多様な関わり方、運動やスポーツの多様な楽しみ方
		【保健】 1章 健康な生活と疾病の予防①	健康の成り立ちと疾病の発生要因 運動と健康、食生活と健康、休養・睡眠と健康、調和のとれた生活		

第1学年	教科名	使用教科書	新しい保健体育(東京書籍)	担当教員	小曾根 雪乃
------	-----	-------	---------------	------	--------

付けたい 資質・能力	協力する力	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	種目の基本用語や技術の名称、ルールを理解しているか、健康な生活を送るための知識を習得しているかを評価する。 基本的な技術を習得し、それを実践できるか、また、試合や記録会で身に付けた知識や技能を生かして表現できるかを評価する。	定期テスト 実技テスト 試合の中で技能を発揮できているかどうかを観察
		思考・判断 ・表現	知識や技能を活用し、自身の課題を発見し、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりすることができるかを評価する。	定期テスト 学習カード グループ、ペアでの話し合い活動で仲間の課題や出来映えを伝えているかを観察
		主体的に学習に取り組む態度	各領域に積極的に取り組むことを通し、自身の課題の発見や克服、記録の向上に努めている姿や仲間と協力している姿勢を評価する。	授業の観察 学習カード 保健ノートの 記述内容

【授業の進め方(授業のポイント)】 ・準備運動や補強運動を通して、怪我の防止や基礎的な筋力や体力の向上に繋げる。 ・基礎的・基本的な技術を習得に向けて、自他の課題と向き合いながら取り組む。 ・ペアやグループの取り組みを積極的にこなす。 ・話し合い活動や振り返りを通して、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりする。	【家庭学習について】 保健分野で学ぶ知識をもとにして、基本的な生活習慣の確立や健康な生活を送ること。
---	--

1学期		2学期		3学期	
【体育】 体づくり運動 陸上競技 球技	新体力テスト 集団行動 ハードル走 バレーボール	【体育】 器械運動 球技 武道 陸上競技 【保健】 1章 健康な生活と疾病の予防①	マット運動 ソフトボール 柔道 長距離走 健康の成り立ちと疾病の発生要因 運動と健康、食生活と健康、休養・睡眠と健康、調和のとれた生活	【体育】 ダンス 球技 【保健】 2章 心身の機能の発達と心の健康 【体育理論】 1章 運動やスポーツの多様性	創作ダンス・現代的なリズムのダンス バスケット 体の発育・発達、呼吸器・循環器の発育・発達、生殖機能の成熟、異性の尊重と性情報への対処、心の発達、自己形成と心の健康、心と体の関わり、欲求と心の健康、ストレスによる健康への影響、ストレスへの対処の方法 運動やスポーツの必要性和楽しさ、運動やスポーツへの多様な関わり方、運動やスポーツの多様な楽しみ方

第1学年	教科名	使用教科書	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology	担当教員	大槻 晃央
------	-----	-------	-------------------------------	------	-------

付けたい 資質・能力	生活における課題解決力	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能・材料と加工の技術と生活や社会、環境との関わりについての理解を図る。 ・等角図→説明書を読み取り、作品を立体的に把握する力があるか。 ・罫書き、切断、組立→加工実習における基本が習得できているか。	定期テスト 小テスト（製図） 罫書き（木材加工） 切断（木材加工実習） 組立（木材加工実習）
		思考・判断 ・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けているか。 →等角図では、自作で立体を描く、実際の大きさより縮図で描ける。実習では、技能習得に向けて改善策やアドバイスができる。	定期テスト 小テスト（製図） 自己評価シート（内容） プリント内の考察（内容）
		主体的に学習に 取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしているか。 →身の回りの物がどんな材料でできているか、どんな加工がされ、組み合わせられているかを調べたり、実習に意欲的に参加しているか。	プリントの記述 自己評価シート（内容） 夏休みの課題

【授業の進め方（授業のポイント）】 ○板書を丁寧にしながら、授業内での補足や説明をしっかりとメモしていくこと。 →大事な単語をプリントに記入する。自分の考えを書くスペースは間違っても良いので、そのとき考えたことを記入する。補足として、例えば話や由来などを話すので、メモ欄や空いたところにメモをとれば、見返したときにわかりやすいプリントに仕上がる。 ○実習では、工具の使い方動画やヒントを参考にし、練習の時間にしっかりと試すこと。 →お手本動画や解説プリントをしっかりと見る、練習時間は積極的に取り組み、わからないことはちゃんと質問する。 ○振り返りカードをしっかりと記入すること。 →授業で学んだこと、疑問に思ったこと、質問などをしっかりと記入していると、チェックした際に質問にコメントできたり、次の授業で全体に補足をしたり、個別で机間指導するなど、教師側も改善できます。実習のときには、次回の目標や予定を記入しておくこと、どの作業から始めれば良いかがすぐに思い出せて、スムーズに作業に取りかかれる。	【家庭学習について】 ○プリントの単語だけを見るのではなく、説明できるくらい意味も確認しておく。 →プリントに書いた補足や由来のメモが活きる。 ○実習で使った工具や使い方、決まりなどは必ず振り返っておくこと。 →定期テストや次回の実習に活かせる。 ○日常生活の中で、製品に利用されている材料について、なぜその材料が使われているかについて考えるようにする。壊れた物がなぜ壊れたのか考える。 →学習への理解が深まる。
---	---

1学期		2学期		3学期	
技術分野のガイダンス	①安全に利用するための情報モラル	(2)材料と加工の技術による問題の解決	①問題を発見し、課題を設定しよう	(2)材料と加工の技術による問題の解決	(2)⑥問題解決の評価、改善・修正
(1)生活や社会を支える情報の技術	②身の回りの材料と加工の技術		②製作品を構想し、設計しよう		
	③木材、金属、プラスチックの特性		③製作の計画を立てよう	(3)社会の発展と材料と加工の技術	(3)①材料と加工の技術の最適化
(2)材料と加工の技術による問題の解決	④材料に適した加工方法		④作業手順を考えて製作しよう		②これからの材料と加工の技術
	⑤丈夫な製品を作るために				
	⑥材料と加工の技術の工夫を読み取ろう				
	⑦製作品を構想し、設計しよう				

第1学年	教科名	使用教科書	新しい技術・家庭 家庭分野（東京書籍）	担当教員	栗栖淳子
------	-----	-------	---------------------	------	------

付けたい 資質・能力	食生活・衣生活の問題解決力	評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】家庭科を学ぶと・・・ (1) 身近な生活場面での衣食住などの自立を目指す。 (2) 自分から家族、家族から地域・社会へと段階的に視野を広げ、自分や家族のために、より良い生活を工夫する力を身につける。	【学習目標】 ・生活の中で食事が果たす役割を理解する。 ・中学生に必要な栄養の特徴がわかり、健康に良い食生活について理解する。 ・食品や用具の安全と衛生に留意して簡単な調理ができる。 ・衣服と社会生活の関わりが分かり、目的に応じた衣服の選択や着用品ができる。 ・衣服の計画的な活用必要性や、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできる。 ・家族の生活と住空間の関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解する。 ・日本の食文化について理解する。	知識・技能	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既得の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。	定期テスト 実技テスト・実習 ワークシート（内容） レポート（内容）
		思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているかを評価する。	定期テスト ワークシート（内容） レポート（内容）
		主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。	ワークノートの記述 振り返りシート（内容） レポート（内容）

【授業の進め方（授業のポイント）】 ・説明をしっかりと聞く。 ➡ 黒板に書かれたことだけでなく、自分が大切だと思ったことや気づいたこともメモし、分からないことは質問する。 ・その時間の課題に挑戦する。 ➡ 苦手な活動でも挑戦する。うまくいかなかったことも諦めず、根気強くやってみる。グループでの交流や、協力することも大切にする。 ・授業の振り返りをする。 ➡ 授業の振り返りをする中で、授業のポイントだけでなく今の自分の課題や、これからの学習の進め方についても振り返りをする。	【家庭学習について】 ・学習したことを家庭でも実践し、生活の改善に務める。 ➡ 授業の学習内容について、実践力を高める。 ・時事問題に関心を持ち、社会と自身の生活のつながりを考えていく。 ➡ 授業の学習内容について、考えを深める。
--	--

1学期		2学期		3学期	
家庭分野のガイダンス	○ ガイダンス 「小学校で学んだことの振り返りと中学校3年間で学ぶこと」	1編4章 日常食の調理	○ 食生活 「持続可能な食生活」	1編4章 地域の食文化	○ 食生活 「和食の文化」
1編1章 食事の役割と中学生の栄養の特徴	○ 食生活 「食事の役割」 「栄養素の種類とはたらき」 「中学生に必要な栄養素」	2編1章 衣服の選択と手入れ	○ 衣生活 「衣服の役割」 「自分らしい着こなし」 「洋服と和服」 「衣服の活用」「衣服の選択」 「衣服の手入れと補修」	3編1章 住まいの役割	○ 住生活 「住まいの役割」 「家族と住まいのかかわり」
1編4章 日常食の調理	「日常食の調理」 「食中毒の防止」 「お弁当づくり」	5編1章 家族・家庭と地域	○ 家族・家庭と地域 「家族・家庭」「家庭生活と地域」		

第 学年	教科名	使用教科書	NEW CROWN I 三省堂	担当教員	秦 水帆子・塚本 淳吾
------	-----	-------	-----------------	------	-------------

付けたい 資質・能力	即興で表現したり伝え合ったりする コミュニケーション能力	評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】 話す・・・自分の思いや考えを英語で相手に伝える 読む・・・声に出すことで正しい発音で読み、内容を理解する 書く・・・単語だけでなく、自分の思いや考えを英語で書く 聴く・・・聴くだけで内容を理解する	【学習目標】 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。	知識・技能	○外国語の4技能（聴くこと、読むこと、話すこと、書くこと）について実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理科している。	定期テスト 小テスト 音読テスト パフォーマンステスト（絵日記）
		思考・判断・表現	○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合っている。 ○聴いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり、書いたりして表現している。	定期テスト パフォーマンステスト（他己紹介、絵日記について質問と応答）
		主体的に学習に取り組む態度	○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ○言語やその背景にある文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	音読テスト パフォーマンステスト（他己紹介、絵日記について質問と応答）

【授業の進め方（授業のポイント）】 Bingo→Bingoシートで単語の発音練習と正しく書ける習慣をつける。 Worksheet→ペアで問題を出し合い、正しい発音やスペルを覚える。 Mini Talk→身近なお題について、ペアで英語で1分～1分半話をする。 教科書の内容を様々な形で深めていく。 「challenge」を大切に、失敗や間違いからたくさん学ぶことを意識させる。	【家庭学習について】 授業のはじめに行うBingoは前もってやってくる。 ワークは復習できるように、どんどん進めていく。○つけだけではなく、解説も読んで、深める。 自主課題として、授業の内容を振り返ったり、予習をしたり、単語の練習などをノートにまとめる。
---	---

1学期		2学期		3学期	
● Lesson1 About Me ● Lesson2 English Camp ● Lesson3 Our New Friend ● Take action Talk I ● Project I ● Lesson4 My Family, My Hometown	● be動詞（肯定文、否定文、疑問文） 自己紹介、友だちのことを知る ● 助動詞can（肯定文、否定文、疑問文） 自分の得意なことや好きなことを伝える ● be動詞三人称 （肯定文、否定文、疑問文） 自分の通っている学校や住んでいる町を紹介する ● Who is this? ● 会話のあいづち ● 理想のロボットを発表しよう ● 三人称単数現在形 （肯定文、否定文、疑問文）	● Lesson5 School Life in the U.S.A. ● Lesson6 Discover Japan	他国の文化を知る ● 競技会場のアナウンス ● Which...A or B? ● 現在進行形（肯定文、否定文、疑問文） 日本とアメリカの学校生活の違いを知る ● 提案する、好みを伝える ● Whose...? 日本を知る ● 一般動詞規則・不規則 （肯定文、否定文、疑問文） ● 道順をたずねる、説明する	● Lesson7 Wheelchair Basketball ● Lesson8 Green Festival	● be動詞の過去形 （肯定文、否定文、疑問文） 車椅子バスケットボールを知る ● 過去進行形（肯定文、否定文、疑問文） 車椅子バスケの日本代表の記事を読み、選手にメッセージを書く ● インタビュー ● look A ● 助動詞will（肯定文、否定文、疑問文） ● be going to 環境について考える ● 天気予報 ● 聞き直す ● 依頼する、承諾する、断る ● 大切なものを紹介する ● Alice and Humpty Dumpty